

ストマトロジー（全身口腔医学）病態解析特論（李 昌一）

Advanced Course of Pathologic Analyses of Stomotology (Masaichi Lee)

キーワード

- ① ストマトロジー
- ② 口腔関連全身疾患
- ③ 酸化ストレス
- ④ 口腔疾患予防
- ⑤ 口腔関連全身疾患予防

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ⑤

授業概要

口腔関連全身疾患の様々な口腔および全身の特徴を理解するとともに、その原因となる因子に関する最新の研究成果に触れることにより、自らの研究能力を高める。また、科学的根拠にもとづいた知識と論理的な思考力をもってストマトロジー的な診断、治療計画の立案、疾患の予防法を修得する。

さらに、口腔関連全身疾患の病態、活性酸素種による酸化ストレスを主とした発症メカニズムにおける最新の研究に関する英語論文を抄読し、プレゼンテーションするとともに、実際の臨床研究症例においてエビデンスに基づき、多職種協働を含めた治療計画の立案を検討する。

授業科目の学修目標

口腔関連全身疾患の原因とその特徴における遺伝子あるいはタンパクレベルでの生理的機能、病態に関する最新の研究成果に触れ、歯の萌出異常や歯および顎顔面領域の形態異常、口腔機能異常、オーラルフレイル、摂食嚥下機能障害、口腔疾患への易感染性などと口腔関連全身疾患病態において、酸化ストレスに関連する発症メカニズムにおける科学的根拠に基づいた論理的なストマトロジー的な治療計画の立案や口腔疾患の予防法に対する思考力を身につける。

授業計画

- ① 口腔関連全身疾患の臨床症状と遺伝子レベルでの病因論 3コマ 李 昌一
- ② 口腔関連全身疾患の病態、発症メカニズムにおける最新の知見 5コマ 李 昌一
- ③ 口腔関連全身疾患の口腔疾患、特徴からみえてくる病態メカニズム 10コマ 李 昌一
- ④ 口腔関連全身疾患のストマトロジーとしての病態を考慮した診断、治療計画の立案、口腔疾患・摂食嚥下機能障害の予防法 12コマ 李 昌一

教科書および参考書

- ① 日本酸化ストレス学会監修内藤裕二、豊国伸哉、赤池孝章、半田修編学会編：酸化ストレスの医学
- ② 鈴木敬一郎編集：活性酸素の本当の姿、ナッパ社 2014
- ③ 池田正一・黒木良和監修、口から診える症候群・病気、口腔保健協会 2012
- ④ 和泉雄一・長田 豊監修：Periodontics for Special needs Patients 障害者・有病者の歯周治療デンタルダイヤモンド 2017

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

口腔関連全身疾患の定義や概要(疫学、概念、病態、合併症)および口腔疾患との連携に関する基本的知識を必要とする。

口腔関連全身疾患の原因となる酸化ストレス(医学・歯科学)学に関する基本的知識を身につけていること。医療倫理やストマトロジーに関する基本的知識を身につけていること。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 口腔関連全身疾患の臨床症状と遺伝子レベルで酸化ストレス病因論について説明できる。
- ② 口腔関連全身疾患の病態、発症メカニズムについて説明できる。
- ③ 口腔関連全身疾患の病態メカニズムと口腔疾患を関連づけて説明できる。
- ④ ストマトロジー的な病態メカニズムを考慮した診断、治療計画の立案、口腔関連全身疾患の予防法を記述できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	40%	0%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験（多肢選択式客観試験）は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、ストマトロジー病態解析特論授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

ストマトロジーの理想的な達成レベルは80%以上とする。